

「何としても年内に解決」

～全国キャラバン 長野県内行動～



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 古畑 秀夫
編集者 清水 孝次

2006年6月15日
第1442号

国労加入を 大胆に 訴えよう！

二十年目に入ったJR不採用事件の解決をめざして、五月八日の北海道コース出発を皮切りに、全国七つのコースで「JR不採用事件の早期解決を求める全国キャラバン・連鎖集会」が取り組まれた。

長野へは、「日本海コース」が、六月十日に新潟から引き継がれ、十一、十二日の両日、長野市内、松本市内を中心に街頭宣伝などを行った。十三日には、高崎に引き継いだ。
また、この行動の前段で、地本独自の行動を六月五日から取り組み大きな成果をあげた。

闘争団受け入れ (十日)

札幌闘争団牧田智雄団長と北見闘争団前北富雄団長を迎え、国労会館で開催されていた「運転・工作職場交流学習会」出席の組合員などの参加で、十六時から歓迎集会を開催した。

両闘争団長から、この間の思いを含めて、「支援に対する御礼、全国キャラバンの成功、JR不採用事件の年内解決を目指して三十六闘争団が力を結集して闘



6月10日の歓迎集会

長野市内街宣 (十一日)

長野駅前を十時にスタートして、十七時まで長野市内五箇所

松本市内街宣 (十二日)

所で闘争団二名からの訴えを中心とした街頭での宣伝、チラシ配布行動を行なった。

前段の長野独自行動

当日は、「教育基本法改悪阻止・県民大集会」も開催され、七百名のデモ行進参加者へもチラシ配布を行うことができた。

長野行動集約集会 (十二日)

引き続き十八時三十分より、松本市・駅前会館において「全国キャラバン長野行動集約集会」を開催した。宮下松本地区労組会議議長、飯田県支援共闘会議議長からあいさつを受け、北見闘争団前北団長、札幌闘争団牧田団長それぞれから「なんと

である、JR不採用事件の実情を多くの人に訴えることが必要であると痛感した一日であった。
牧田団長と前北団

長は、延べ五時間の街頭宣伝でマイクを握り市民へ訴え続けた。宣伝、チラシ配布行動参加者は五十名。

お二人から「地域で闘争団の闘いを支援していく」と心強い激励のあいさつをいただいた。

最後に宮下松本地区労組会議議長の音頭による団結ガンパローで集会を閉じた。街宣行動および集会参加者は百名を超えた。

午前十時より県支援共闘会議をはじめ、県単産を中心に精力的にあいさつ回りを行い、今日までの御礼と引き続き支援

午後十時より移動し、十五時から松本地区労組会議など支援単組まわりを行ない、今日までの御

礼と引き続き支援を訴えた。
支援の仲間からは「長い闘いになっていくが、国労がしっかりと団結して闘ってほしい。解決まで支援を続ける」と力強い激励を受けた。

十七時三十分から県内最後の街宣となる松本市駅前での宣伝、チラシ配布行動を行った。



松本駅前での訴える札幌闘争団・牧田団長



松本駅前での訴える北見闘争団・前北団長

今回の『全国キャラバン行動』では、前段の取り組みとして、六月五日から九日まで、東北信支部、中南信支部、車両所支部、各地区協・分会が協力しあい、県下各地に宣伝カーを回した。
また、貨物協議会

は、駅頭や団地などで合計六千枚のチラシ配布行動を行った。このように、地方本部は『一人一行動』を基本に独自行動を展開し、大きな成果をあげることができた。



松本地区労組会議議長の音頭で団結ガンパロー

全国大会・東日本本部大会 代議員が決まる

六月十日に公示された全国大会及び東日本本部大会代議員選挙は、十四日に立候補届出が締め切られ、いずれも定数通りの立候補となったため、左記の通り無投票当選となった。(選挙公示第二号を参照)

全国大会代議員当選者については、その抱負を掲載するので参考にされたい。各代議員には、長野地方本部を代表し、それぞれの大会成功に向けて奮闘を期待する。

第74回全国大会代議員 定数3名 (届出順)

氏名	年齢	職 場	組合役職名
伊藤 公正	57	第一建設工業(株) 出向	地本副委員長
塩原 智久	48	松本運輸区 車掌	支部書記次長
佐藤 正幸	47	長野機械技術センター	地本書記長

第20回東日本本部大会代議員 定数4名 (届出順)

氏名	年齢	職 場	組合役職名
清水 孝次	46	松本運輸区 運転士	地本執行委員
吉澤 英夫	51	豊野駅	支部副委員長
粕尾 彰	45	小海線営業所 中込駅	地本執行委員
樋口 武美	45	総合車両セ 製造科	分会長

第74回定期全国大会は、7月27日～28日に静岡県伊東市で開催される。また、第20回東日本本部定期大会は、8月11日に東京で開催される。

以下に全国大会代議員当選者の抱負を掲載する

伊藤 公正

五七歳
第一建設工業(株) 松本 出向
施設技術係
地本副委員長

採用差別事件は、時効もあいまって、一日も早い解決を勝ち取らなければならぬ情勢にあります。国労は政治解決を求めて世論喚起のためのキャラバンを全国で展開しました。

しかし、いまだ政府は動くことはいまいません。本気で解決を迫る強固な闘いを早期に創り上げていかなければならぬことを情勢は示しています。今次の定期全国大会は、情勢を変え、交渉テーブルに着かせる政治状況を必死でつくり上げるためには何をしなければならぬのかを論議の中から導き出すことが求められています。私は、その政治状況を作るためには、今の国労の力量や政治を取り巻く状況からして、中央本部指導部の「決死の国会前ハリスト」しかないのではないかと考えています。その闘いを全国の国労組合員が支え、共に地方でも総決起していく決意が求められていると思います。

分割民営化時に時の中曽根首相は「国労・総評を潰して新しい憲法を設置する」と言い放ちましたが、まさに憲法改悪は現実問題となってきました。そして、戦争の出来る国への転換が着々と図られています。

「平和を守り、憲法を守れ」「首切り自由の社会を許さない」との闘いと、国労の採用差別事件の政治解決を求める闘いを結合し、「国労」自身が、国会前ハリストに立ち上がるべき事を全国大会では確認したいと思えます。私も全力を上げて闘い抜くことを明らかにし、立候補にあたっての決意とします。

塩原 智久

四八歳
松本運輸区
車掌
支部書記次長

第七十四回定期全国大会は、JR不採用事件の「政治解決」を実現するために大変重要な大会です。

JR不採用事件は、すでに十九年が経過し、闘争団と家族、そして私たち組合員、また多くの支援してくれた仲間が、早期解決を望んでいます。

私たちは昨年の大会以降、国労内の団結回復をめざし全力をあげて取り組んできました。「この機に解決を！」合言葉に、「二・一六集会」や「四・四集会」が開催され、政治解決を実現するための強い決意を内外に明らかにしてきました。そして、全国的な世論喚起に呼応して、全国キャラバン・連鎖集会の地本独自の取り組みとしての街宣活動、集約集会等を展開してきました。支援共闘の仲間からは「国労が一つにまとまるのが何より大切だ」と言われ、また多くの激励をいただき、大きな成果をあげることができました。こうした世論喚起の取り組みをさらに強めていかなくてはなりません。

また、組織拡大の取り組みも緊急かつ重要な課題です。目的意識をもった世話役活動と日常の分会運動の活性化とともに、本気になった取り組みが今こそ求められています。

いづれにしても、この重要な局面で、全組合員が総団結・総決起すべく方針の確立に向けて精一杯頑張りましょう。

佐藤 正幸

四七歳
長野機械技術センター
施設技術係
地本書記長

今定期大会の課題は、JR不採用事件の早期解決に向け今日まで積み上げてきた全国からの取り組みや闘いの到達点を全体で確認しあい、さらに運動を前進させるために、団結をより強固なものにし、具体的な要求に基づき「この機になんとしても年内解決を図る」という国労の固い決意と姿勢を全国大会を通じて内外しつかり示すことにある。

昨年の九・一五判決以降、国労本部、闘争団全国連絡会議など関係者の努力により、国労はじめ被解雇者全体の「大同団結」がはかられ、解決に向けた我々の側の態勢が整いつつある。北海道・九州からスタートしたキャラバン行動は、六月からは、本州各県縦断のキャラバン・連鎖集会、新聞意見広告の掲載など大きく世論の反響を得ている。早期解決に向けて大事なことは、支援の仲間の結集と全体的な世論へのアピールをさらに強めること、各エリア、地方が本部としっかり連携し国会対策、政治対策を通じ、政府や鉄道運輸機構に対して実質的な話し合いを開始させることにある。

一方、国労東日本本部は昨年の昇進和解に続き、現在出向・配転・パッチ事件の和解に取り組んでいる。この間、一連の和解において対象者の救済はもろろんのこと、健全な労使関係の確立、組合所属による差別的解消が図られなくてはならない。そして、この和解を通じて不採用事件解決への足がかりにしていかななくてはならない。

極めて重要な局面の中で開催される全国大会である、成功に向け全力を挙げる決意である。